

無所属36歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索

住所 横須賀市野比2-13-18

☎ 070-6640-3927

Fax 046-801-2177

✉ info@kobayashinobuyuki.com ↑

Web <http://kobayashinobuyuki.com>

野比在住。1975年(昭和50年)9月3日生。筑波大学卒。地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。政策秘書試験合格後、衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書として修行し、2011年4月より横須賀市議会議員。地域通貨イタッチ事務局長など、市民活動にも関わる。

第一特集

横須賀ハコモノ白書

第一弾
貸館編

ハコモノいっぱい横須賀市。約300室に約2万人収容。そんなに会議したいですか?

第二特集

一年生、小林のぶゆきの「通信簿」



第一特集

横須賀ハコモノ白書

第一弾 貸館編

ハコモノいっぱい横須賀市。約300室に、約2万人収容。そんなに会議したいですか?

「横須賀ハコモノ研究会」を、立ち上げます!

人口が減少し、利用者も減って税収も減る中、ハコモノはこんなに必要なのか? 今後、「施設のリストラ」は全国どの市町村でも課題になります。しかし、横須賀市はハコモノだらけなのに取り組みが遅れており、私は議会で指摘してきました。

そして今回、「横須賀ハコモノ研究会」を立ち上げます。

貸館、行政センター、小中学校など「将来の横須賀市のハコモノはどうあるべきか?」という大きな構想を、市民の手で練っていきたく。その第1回目のテーマがコレ、「貸館」です。

横須賀市民は、どれだけ会議好きなの?

約3000億円もの横須賀市の借金。色々なことにお金を使ってきましたが、ハコモノ(施設)関連でも借金をたくさん積み上げてきました。ひとくちにハコモノと言ってもいろいろあります。小中学校や主なトンネル・橋などは「必ず造らなきゃいけない施設」、芸術劇場に美術館、ソレイユの丘などは、いわば「なくても別によかった施設」です。そして今回、注目したいのは会議室やホールなど「貸館系」のハコモノ。「ある程度は必要だけど、たくさんは要らない施設」です。



私の概算の試算では、横須賀市全体でなんと292室! その定員の合計は、実に約20,700人分! ※まさに会議のし放題です(苦笑)。

※全て一般市民が普通に利用できる施設のみ。一部の方しか使えない施設は含まず。市民活動サポートセンターなど貸切できない施設の定員も含む。

ホール系が芸術劇場・文化会館・はまゆう会館。会議室系が、デュオよこすか(総合福祉会館)、ヴェルクよこすか(勤労福祉センター)、産業交流プラザ、ウェルシティ(生涯学習センター)と大物だけでこんなにある。その他、各コミュニティセンターや各青少年センターなど小物も入れると図の通りビッシリです。

稼働率 1.1%って、全然使ってないよね!?

で、このテの施設は、使われなくても維持するだけで電気・冷暖房・掃除・管理委託料など、お金がかかり続けます。でもその割に、中には年間の稼働率 1.1% という部屋さえあります。理由は、需要が少ない(横須賀市民が利用しなすぎ)ではなく、明らかに供給過剰(必要以上に施設をつくり過ぎ)なんだと思います。



知恵を絞って、施設を絞れ。

では、どうすればいいの? まず、徹底的に施設の量を絞り込む必要があります。第一に、今後は新しくつからない。第二に、オフィスやテナントなどにどんどん賃貸をする。「お金のかかる施設」から「お金が入る施設」に転換するわけです。実際、ヴェルクよこすかでは3部屋を貸して今後は年間約480万円入る見込みです。「それじゃ市民サービスが低下するじゃないか!」とお叱りを受けそうですが、そこが知恵の絞りどころです。

たとえば、小中学校は基本的に夜間と休日は使われていません。一方、多くの大人は平日の昼間に働いているので、会議室のニーズは平日の夜と休日が高い。だから、少子化で生まれた小中学校の空き教室を開放すればいいんです。このように、余分な会議室を学童保育や障がい者支援センター・授産施設などに転用したり、施設を複合化したりできないか?

一緒に可能性を探りませんか? ハコモノ研究会にご関心を持って頂けた方は、編集後記をご覧ください!

→施設のリストはこちらから <http://kobayashinobuyuki.com/doc/FacilityList.pdf>



みなさんの力で横須賀市議会に送り込んで頂いた2011年4月の選挙から、1年が経過しました。議員の一年生として、「通信簿」をつけたら何点か？ 甘い自己採点ですが(笑)振り返ってみたいと思います。もちろん、41人いる議員の1人ですから自分だけで何かできるわけでもなく、最終的には約3300人の職員を動かす市長らが命じなければ物事は動きません。なので「できたことは、小林1人の仕事じゃない。できなかったことも、小林1人の責任じゃない」ということはご理解ください。

【1年で、できたこと】

●東京電力との随意契約の見直し→PPSへの切り替え

これまで横須賀市の電気は、基本的に東京電力一社との随意契約により、いわば「定価」で買っていました。

そこで、前号でお伝えしたように私が言い出しっぺとなって、他の議員と協力しながら、一般競争入札で安く買うよう提案してきました。その結果、まずは小中学校で2012年度に切り替える、と吉田市長が3月議会で約束しました。

●「施設白書」の作成へ

横須賀市はハコモノ過剰(オーヴァーストック)状態にあることは、第一特集でも触れましたよね。ところが横須賀市は「市の施設はどの位あるのか？ 寿命はいつまでか？ 建替えにはいくら位かかるのか？」といった全体像を把握できていませんでした。そこで私は、昨年の9月議会で、藤沢市や杉並区などの先進自治体のような「施設白書」の作成を提案し、吉田市長から「検討する」との回答を得ました。その後、3月議会で他の議員が改めて質問して、市長は2012年度中の作成を約束しました。頑張っている資産経営課に、今年はどうぞご注目を！

●太陽光パネル補助金、230件→400件へ

人気の太陽光発電ですが、自宅に設置すると市・県・国から

それぞれ補助金がもらえます。でも、市の分は件数が少なく、2011年度は230件分を用意しましたが、4月に募集開始して7月には早くも終了。そこで70件分の補正予算を組んで募集をかけたら、なんと募集初日の午前中だけで申込が一杯！なので、私が「額を減らして件数は増やして！」と粘り強く何度も提案してきた所、2012年度は環境企画課が400件分を確保してくれました。(本当はもっと増やしたかったんですが、苦笑)

●「生活保護は、国のお金で実施して！」→意見書提出

横須賀市の財政を圧迫している生活保護費。これを本来の姿である全額国負担とするよう求める意見書を、多くの先輩議員のみなさまに同意を頂いて、国に提出できました。

●谷戸からの「撤退」ーモデル事業の実施へ

「横須賀をコンパクトシティに」が私の持論。過疎化や高齢化が進む一部の谷戸からの「撤退」を、ずっと提案してきました。2012年度は、一部の谷戸からの住み替えに助成金を出す事業を含んだモデル事業を都市部が実施してくれます。

●リフォーム助成の実現

市民要望を受け議会が一致して働き、予算に盛り込まれました。

【取り組んだけど、1年ではできなかったこと】

●中学校給食の導入

アンケートで92.5%が賛成でしたが、まだ進展はありません。

●芸術劇場、美術館、ソレイユの丘の運営方法の見直し

少しずつ切り込んでいます。蟻の一穴を開けたいところ。

●事業の抜本的な見直し

もう少しで、目に見える一歩をお示しできると思います。

●ハコモノから命へ

ハコモノ予算を減らすには時間がかかる。だから第一特集で指摘した会議室等の福祉分野への転用を提案していきます。

できたこと。まだできていないこと。それぞれありますが、みなさんに見えぬように、わかるようにし、変えていきたい。残りの任期3年間もがんばります！

編集後記

●食品の放射能測定を開始！

「市内で生産された食品や流通する食品について、放射能測定してほしい」との市民要望は多かったのですが、市の動きが鈍いので仕方ありません。コミュニティ Cafe「おりょうにおまかせ」や瀧川君枝前議員のご協力により、横須賀でも私独自の 방법으로4月14日～測定を始めました。協力方法など、詳細は下記 URL からご確認ください。

<http://kobayashinobuyuki.com/index.php?RadiationMeasuring>

●「横須賀ハコモノ研究会」を立ち上げます！

第一特集でご紹介した「ハコモノ研」ですが、第1回を下記の通り行います。今回は都合が合わない方にも次回のご案内などをお送りしますので、来られる方も来られない方もご関心あればご連絡を。

- ・日時：2012年6月3日(日)10:00～11:30
- ・場所：産業交流プラザ 特別会議室・資料代100円

※私の後援会的活動ではありません。どなたでも参加頂けます。



応援してください！

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- ご自宅への看板設置
- 学生インターン

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思っただけの方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。

必ず私、小林伸行が自分で目を通します！

E-mail: info@kobayashinobuyuki.com Fax: 046-801-2177



小林のぶゆきの基本政策

見える 誰が何をどう決めてるのかわかんない……。

市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

わかる 難しい説明をされてもよくわからない……。

いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

変わる これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。

現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。